

誰にも負けへんぐらい練習した。そこだけは結構誇

れるかな。

語り手 山口順帆(高校一〇期生 副操縦士) 聞き手 中澤泰介

*

―まず、なぜこの聞き書きに参加しようと思ったのですか？

正直なところ、他の人がどんな理由でやってるかはあんまわからへんねんけど、やっぱ俺、めっちゃアホやつてんか。やし、先生にもめっちゃ迷惑をかけてきたから、要はそれやつたけど、ある程度なんかさ、頑張ってきた、周りのみんなとかのおかげもあって、この運航の仕事に携われるとかはあるなと思って、やっぱ先生たちにも迷惑かけたし、それをこう還元はせなあかんと思うから、恩返しやな。だから、何を学んでほしいとか別になくて、ただ喋って、こういう生き方もあるよみたいなのを、教えたらどうか、自分の周りで今まで生きてきた中で、こう、パイロットの知り合いはおらんかったし、自分が初めてパイロットになって、ようやく会社の周りの人がパイロットだったりとか、同期がパイロットっていうことやから、だから、周りにおらん職業やと思うから、こういう仕事とか生き方もあるよというのを知ってくれたらいいな

―趣味はありますか？

テニスかな。あとは、全国に、ポケモンの蓋があんねん。京都にもあるねんけど、仕事上、日本全国に結構泊まるから、ポケモンの蓋を、宿泊地のところで探しに行ったりするとかが最近好き。だから、要は、テニスと散歩で、宿泊地でのポケモンの蓋を探すのが好きかな。

中高生時代

―学生時代で得意だった教科や苦手な教科はありますか？

得意だった教科は、ないな。苦手は全部やな。

―印象に残っている学校行事はありましたか？

文化祭かな。それこそやっぱり規模がでかかったっていうのはあるかな。あとは、より、今の時代は、主体的に生徒が動かすことが多いんじゃないかなと思う。立守自体が。自分の時も、結構他の学校に比べたらクラスとしての自由度は高かったと思う。文化祭やる中で自由度高いとは思ってから、楽しんでやったらいいと思う。せやな。今、何がある？

―体育祭や海外研修です。

海外研修はちよつと印象には残ってるからな。ボストンに行って、今ないと思うけど、マサチューセッツ工科大学に行くとか、なんかそういう起業家精神を学ぼうみたいな感じかな。そういう企業家精神を養うみたいなのはやつた。

―高校卒業後の進路はどうやって決めましたか？

珍しいタイプやと思うな。卒業生の中でやっぱり立命を出るっていう選択をしたのは結構珍しくて。進路の決定したのは高二ぐらいかな、大体。元々は航空自衛隊に行きたかったん。航空自衛隊の最近ブルーインパルスってニュースで見た？ あれに元々なりたかった。

―なぜですか？ 幼少期からですか？

ちよつど中学生ぐらいちゃうかな。ドラマであつたん。『空飛ぶ広報室』っていうドラマがあつて、その航空自衛隊のブルーインパルスのパイロットになれなかった人みたいな役があつて、それを見て、ブルーインパルスがすげえなみたい。その前から、元々ずっと航空関係を見て

て、管制官タワーがあんねんけど、飛行機に対して指令を出す管制官って人やねんけど、飛行機のパイロットはパイロットでも種類がたくさんあるから、その中やったら、ブルーインパルスとか戦闘機に乗りたかったなって思ってた。そう、そんな感じで思った時に、パイロットになるために立命館大学では、難しいと思つて、東京の多摩にある桜美林大学ってところ選んだのがきつかけかな。だから、要は、やりたいことがその大学にあったから。

*

パイロットの仕事について

—今の仕事の内容教えてください。

名刺をお渡ししましたけど、今はANAウイングス株式会社の副操縦士、ボーイング七三七の八百型機の副操縦士をやってます。

やつてるとは、飛行機の運行。要は、お客様を安全に、目的地に届けるのと、約束されたその時間を守つて、快適に揺らしたりとかせえへん快適な飛行を心がけています。

—やりがいや楽しさありますか？

空港がある最北端から最南端まで飛行してる会社やから、やりがいはやっぱり日本は中緯度つて言つて、地球の中で言う結構真ん中の方に位置しているんやけど、真ん中の方に位置してると、天気とかがめっちゃ変わるの。北極とかでさ、夏暑いとかはならへんやん。でも中緯度地域やから、台風があつたり、四季があるから、天気が変わつて難しいけど、そこに対して、安全にお客さんを運べた時にすごい嬉しいなと思うな。安全がもちろん第一なんやけど、安全にお客さんを運べた時一つやりがいとしてあつて、あとは地元を飛べた時はいいよね。京都とか、

地元やんみたいな。

—上空からわかるんですか？

裸眼視力がめっちゃいいから見える。上空から十二キロ下のものは見える。琵琶湖とか琵琶湖大橋とか見えると、やっぱり嬉しい。日々、雲の形とか綺麗やなと思つたりする。やりがいは、安全にお客さんを運ぶことと、地元が見れたりすることかな。

—天候荒れた日とかに、飛行機の操縦とかしたことあるんですか？

あるな。難しいな。欠航はまだ自分したことないな。同期とかはあんねんけど、天候つて雨とかだけやと思うやん。色々条件があつて、ほんまに最近さ、火山とか噴火したりしてる。鹿児島の方とかね、火山とかがあつたりすると、やっぱり危ない。火山灰の影響を受けたりするから、それで欠航になったりとかはあるな。でも、やっぱり運行条件が悪い時、例えばやけど、俺は副操縦士で、俺の今のお仕事つて、要は機長さんと俺の副操縦士つていう、その二人の人がいないと、飛行機を操縦しちゃダメなんだけど、そういう時に、副操縦士が操縦しちゃダメな条件もあるねんか。風の条件とか、やっぱりこの滑走路の幅の中で、かつ長さの中で、飛行機を収めなあかんし、安全にしかも収めなあかんしつてなると、やっぱりその条件は厳しくなるから。厳しい条件でも、運行は条件があんねんけど、安全、快適、定時制、第一安全、快適は揺れへんとかで、定時制は時間を守るで、あと、排気ガスとかの環境配慮するのと、あとは経済性とか。それも燃料を使わないとかそういう感じやけど、やっぱり安全に運ぶつていうのが一番大事かな。

—大変と感ずることはどんな事ですか？

終わりがないかな。この仕事の結構特徴としては、自分でもう一回こう再度確認してるというか、噛みしめているねんけど、やっぱり新しい

ことがたくさん起きるのよ。例えばやけど、いろいろ事故とかがあったり、二〇二四年一月一日にあった羽田の追突事故とかがあって、そういう事故とかでも原因を探ったりとか、それを影響させたルールの改定、ルールが新しくなったりとか、日々、その知識をアップデートせなあかんから。それがすごく大変な仕事かな。飛行機を操縦する腕、操縦のセンスとかも大事なやけど、新しい知識を日々勉強することが意外と大事だったりする。

―勉強が多いですか？ 飛行機が好きだから勉強も楽しいと感ずますか？

勉強が多いな。でもそれを普通に楽しいと思うからまだええな。せやな。でもそれがさ、それ知ってないと、最悪もう大事故とか起こすわけ。それを考えた時にやっぱりピリツとはするよな。普段こんな感じやけど、やっぱり仕事の時はやっぱりちよつと違うな。テンションはやっぱりそこまで高くないというか。そこはしっかりメリハリつけてるかな。

―事故ったら犯罪になりますか？

なるな。高知空港があんねんけど、俺らからするとよくやったっていう内容なんやけど。飛行機ってさ、車輪があるやん。頭が前とすると、頭のところにメインの車輪、三角の車輪がついてるわけよ。で、メインの車輪は出てんけど、ノーズの車輪が出なくて。もう出てないまま着陸してん。で、頭をついてちよつと煙が出るぐらいやってん。原因はまあまあ色々あんねんけど、こんなんさ、お客さんからしたらさ、もう無事に降りてくれたヒーローやん。俺もそう思うし、今でも。でも、警察から言われたんは、器物損壊罪ですって。お客さんの命救ってんで。その、空港の滑走路を損壊させたから、器物損害罪になってる。でも、そんな

ことは滅多に起きひんうんようにはなってるし、もちろんこの事故の原因もメーカー側にあった。

―自分も飛行機の操縦者に責任はないと思いました。ヒヤヒヤしますね。パイロットをしている上で、特に印象に残ってる出来事がありますか？

印象に残ってるものか。その、ターニングポイントとかは色々ある。―じゃあ、そのターニングポイントを教えてください。

何個かあんねん。人生においてこう、何個かみんなあると思うんやけど、俺がよし、やりきったと思うのは二つあって、一個目は二〇二〇年。十二月ぐらいの時に試験があつて、アメリカに一年半留学して、三つ免許を取らなあかんくて。その二つ目の試験の時に、朝の五時から試験あつて、試験の日やってんけど、バスの時間がなくて、もう早く行こうみたいになつて、最終バスの十二時に家出て、学校に泊まるというか、学校の中でその審査を、模擬できるシュミレーターみたいなのがあんねんか。シュミレーターで朝の一時から四時くらいまで練習して、試験の時、真つ暗の中、飛行機出発させて、小型機やってんけど、飛行機出発させて、その飛行機審査終わって、合格したつてなつて、朝日が登ってきたところがすごい覚えてる。ほんまに朝六時とかに審査が終わつて。その朝日の写真はな、（その時の写真を見てもらう）これが、夜十二時に飛行機に行つて、飛行機の確認して、この飛行機に乗った。で、これが審査が終わつたの朝の六時四六分、合格したつていうのを言ってもらつて、日の朝焼けは一個やっぱ覚えてて、その免許を取る試験のときの朝焼けかな。これは絶対忘れへんな。あと、もう一個は、就職活動の時かな。就職活動はちよつと特殊なんやけど、エントリーシートとか書いたりとかするねんけど、日本に航空会社つて十五個ぐらいし

かないねん。みんな知ってるANA、JALさんとかPeachとかジェットスターとか色々あねんけど。大学を卒業して入社試験受けれるのって、一回だけやねん。各社一回だけだから、俺はJALにはもう一生行けへんし、ジャル系列に行けへんかな。

―一回受けたら終わりですか？ 一生、その会社には入れない？

そう。一生入れへん。普通の就職やったらさ、色々さ、いっぱいあるやん道が。この業界行ったら関西電力とかやったら有名やし、入社試験受けるかみたいな。でも、これはちゃうなみたいに思ったら、じゃ、物流行くとかできるし、そんな感じでできると思うねんけど、俺らってそれがなつた時にできんというか、パイロットになるための大学に行ってたんか。桜美林大学に行くってなつたら、パイロットになるための大学に行つてると、それ以外の仕事について、全然わからへんし、建築とかも行けるわけないし。そう、飛行機の運航に対して特化した人やから。かつ、俺の時期ってコロナで、コロナ禍での就職活動やったから、もう航空会社ってコロナでもう大打撃やつてん。旅行者はおらへんし。で、ワクチンを運ぶぐらいしか仕事がなかったから、航空会社としては大赤字やつてん。要は、会社が赤字の時って人を募集できひんやん。だから、もうコロナ禍で就職活動をせなあかんっていうのと、やっぱ入社試験が各社一回しか受けれへんから、そのプレッシャーはすごいあつて、最後、もう死ぬ気で練習しまくって、それもシミュレーターなんやけど。シミュレーターはやっぱやればやるだけ上達するし、例えにくいけど、勉強とかでさ、やればやった分だけ上手くなる（賢くなる）やん。それと一緒に感じ。シミュレーターの中で飛行機を飛ばすみたいな、飛行機を今、上空にいる体で着陸させてくださいみたいな。で、着陸するときの、色々ルールが課されねんけど。その試験で、誰にも

負けへんぐらい練習した。そこだけは結構誇れるかな。そうやって合格を勝ち取ったというか、入社資格を得たから、やっぱそこは、一個掘んだポイントかな。多分、なんか人生においてポイントっていうのは多分何回か来ると思う。

―今、パイロットをされていると思うのですが、子供の時の夢とかどうでした？ 学生時代に描いていた将来像と同じですか？

同じではないのかな。どうなんかな。学生時代に思い描いていたものと。学生時代そこまで何も考えてなかった。

―じゃあ、急にパイロットになりたいなって感じですか？

そのパイロットになりたいと思っただきつかけとか、夢のきつかけを話すと、小一ぐらいまで戻るんやけど。六年と一年がパートナー制度みたいなのがあつてん。上級生が下級生の世話をするみたいな。その時の上級生が車椅子やつて。病気のせいで、もうずっと車椅子生活で、握力も十キロとかしかない感じ。小一の時つてさ、絶対覚えてへんやん。何にも覚えてないし、普通の人やと思うわけよ。今、大人になってさ、車椅子の人乗ってたらさ、ちよつと不思議に思ったり、なんか病気なんかなと思うやん。小一やからさ、車椅子を見ても、別にその、偏見がなかったし、なんも思わなかった。普通の兄ちゃんやと思ってたから。で、その人の病気は、筋ジストロフィーって病氣やつてんだけど、筋ジストロフィーっていうと、筋肉が徐々に萎縮していくみたいな病氣で。その人がポケモン好きやったから、自分も好きになった。で、その人と出会ったのが一個。小四ぐらいかな、インフルなってんか。インフルになった時に、漫画を親が買ってきてくれてん。『宇宙兄弟』って知ってる？ あんま知らんよな。『宇宙兄弟』っていう漫画があるんやけど、その漫画が、『宇宙兄弟』っていう名のぐらい、宇宙に行く兄弟の話なんやけ

ど。『宇宙兄弟』の中に、宇宙で病気を治すみたいな描写があつて。

で、元々なんか小学校の時に宇宙とかがすごい好きで、ロケットの本とかを読んでる子やつて、だからといって理科は得意じゃなかったし、ただ漠然と好きやなみたいな。で、宇宙飛行士になった人がたくさんいるんやけど。三人のパイロット宇宙飛行士がいて、その人たちが戦闘機のパイロット、エアラインのパイロット、航空会社のパイロットと、あともう一人がJALの整備士やつていう、三人の人がやっぱ航空関係に行つてたから、航空会社に行きたいなっていうのがきっかけであつて。結局言うと、漫画とドラマの影響みたいな。

—全然そういうのから進路が決まりますか？

そんなことはないよ。あんまり。なんか結構珍しいというか、ここまです分夢が叶った人は多分少ないな。結局いうたら、宇宙飛行士になりたかった。筋ジストロフィーを治すために、JAXA（宇宙航空研究開発機構）が、宇宙で研究してんねんか。筋ジストロフィーは、有効な治療法、治療薬がないねん。それを俺が治してあげたかったな—っていうところかな。思い描いた理想は叶えられてると思うかな。

*

将来に向けてのメッセージ

—高校時代でのその経験が今に繋がってることありますか？

高校時代の経験あんま考えてなかったな。けど、立守の良かったところとかを挙げるとするならば、自主性を重んじているのかなっていうのと、いい人が揃ってるよね。まだずっと仲良くしたいなっていう人。でも、やつぱり、そういう高校の仲間ができたってところは、一個大きなところかな。どう、今の生活でタメになりそうなことある？

—プレゼンとか人と交流することが多いから、プレゼン力とか意見交換し合うことが社会で活きるかなと。

そやな。こういう聞き書きとかも、他の学校ではあんまやつてなかったりすると思うねん。大人と喋ったりとか、社会人の人とメールのやり取りだったり。その、交流とかは、広げられるよねってところはいいなと俺も思うな。

—今後どうなっていきたいですか？

機長やな。キャプテンになるっていうのが最終的な目標で、今は副操縦士やから、機長の補佐をするってところやから。機長っていうのは、やつぱり飛行機において最高責任者。要は、何があってもこう、なんか自分の飛行機なわけよ。何を起こしてもあかんし、もちろん怪我さしてもあかんし、全部責任をもつてるのがキャプテン。自分は、袖にあるのは三本線なんや。だけど、機長は、袖に四本線なんや。この三本と四本の差、このやつぱり一本違うっていうのは、ほんまに大きいな。機長がやつぱり、今やりたい仕事かな。そのためには、ほんまにもう全部を知らないあかんから。

—じゃあ、最後に人生で一番大切にしていることは何ですか？

危機感は大それたやな。自分がさ、焦った時って、本来のパフォーマンス以上出せたりもするんちゃうかなあ。なんか危機感って、やつぱりなんか人を育てる要因になると思う。それこそ、TOEFLも、やばいみたいな危機感でやつぱり最後点数をもち取る人もおるし（笑）。だから、危機感がこう、人をこう一個成長させるかなと。俺とかやつたら、パイロットの試験に二回ぐらい落ちてんけど、あと同じ試験に二回落ちると、もう強制帰国なんよ。パイロットにもなれへんし、三回目のチャンスはないねん。要は、二回試験に落ちて不合格すると、もうパイロットにな

れへんねん。そんなんやばいやん。しかも学費もさ、すごいかったし。危機感を持つてないやつはやっぱり就職もできてないしっていう感じかもしれへん。だから、めっちゃ大事なポイント。自分を成長させるために、やつは危機感を持つてやるみたいなのが大事なかな。俺が言ってることも、今日録音したことも間違ってること絶対あると思う。自分に当てはまらんこともあると思うし。だから全部こう、なんか鵜呑みにする必要はないのかな。やから、要は俺が喋ってる内容って俺の人生の積み重ねなわけ。他の人が語ってんのもその人の人生の積み重ね。自分でこう噛み砕いて自分の人生に落とし込むっていうのが一個必要なのかなって思う。

—今日は、ありがとうございます。貴重な話が聞けて良かったです。

【感想】

パイロットとして働く上で、日々努力を欠かさずに上を目指していく姿勢にとっても尊敬をした。また、仕事に対しての責任感や情熱、誇りを感じ、自分も誇れるような仕事がしたいと思った。お話を聞いて、教わったことを自分のこれからの人生に繋げていきたいと思ったし、自分の世界が広がったように感じた。夢に向かって努力していきたいと思った。



左：	語り手	山口順帆さん
右：	聞き手	中澤奏介